

2020年(令和2年)11月19日(木曜日)



丁寧にソバの実を収穫する参加者。三島市で(GW三島提供)

青空の下30人

ソバ収穫体験

三島のNPO

東海道の宿場町として栄えた三島市で振る舞われるソバの文化を盛り上げる活動に取り組み、同市のNPO法人グラウンドワーク(GW)三島は、市東部の箱根西麓のソバ畑でソバの収穫体験を開いた。

市民ボランティアら約三十人が参加。青空の下、白いソバの花がじゅうたんの

ように広がる約八百平方メートルの畑で、丁寧に実を収穫した。収穫した実は脱穀などをしてそば粉にし、十二月中旬以降に開催予定のそば打ち教室や試食会で使う。

GWによると市には宿場町で振る舞われたそばの文化が残っている。GWは地産地消で盛り上げようと三年前から、耕作放棄地でソバ栽培をしている。台風が少なかった今年は量、質ともに出産で、約九十キログラムの収穫を見込んでいる。

(渡辺陽太郎)